

2022 年度夏の三者総会 議事録

令和 3 年 8 月 9 日

概要

本総会は令和 3 年 8 月 9 日 (火) に、オンラインにて開催されました。

1 2022 年度修正予算案

予算案は承認されました。

2 有志学生連合による運営体制の提案

以下では新潟大学から提出された、有志学生連合による運営体制の提案についての報告です。この提案は 2.2 で記述する点を変更したのち、賛成 47、反対 2 で可決されました。

2.1 有志学生連合による運営体制の提案に対するコメントと質疑応答

有志学生連合による運営体制の提案に対するコメントと質疑応答をまとめる。

- 所定の人数が集まらなかった際に夏の学校の開催自体を中止にせざるを得ない案を修正すべきではないかという指摘があった。例えば、人数が集まらなかった場合はローテーション校の中から人員を検討するなどの代案を用意するべきではないかという意見が挙げられた。
- 新潟大学の提出した議案では、「D3 は特に多忙なため実働人数には数えない」という理由から D3 の有志の募集は行われたい予定であった。これに対して、多忙であるかは個人個人の判断に任せて D3 の募集を行っても良いのではないかという意見が挙げられた。
- センター校の予算申請にあたり原子核・素粒子両方の外部団体に申請する必要がある。しかし、有志が集まった学生だと原子核・素粒子分野に人数の偏りができる可能性がある。実際、現時点で行われたアンケートでも原子核分野の学生の有志は集まっていなかった。このまま原子核分野の学生が集まらなかった場合の対応を検討すべきであることが指摘された。
- 新潟大学の提出した議案では、「募集人数は 3-5 人とする」とあるが所定の人数以上が集まった場合にどのような対応が行われるかという質問が出た。人数が多くなった場合は他の役職校で人員不足のところに回すこととなった。この際、今年度はオンライン開催であったためセンター校の業務を 3 人で行うことができたが、対面開催を行うのであれば 6-7 人は必要であることが指摘された。
- 人員の選定については、例年の役職校でも行われてこなかったことから有志の人員募集の際にも選定条件などは設けないこととなった。
- 有志学生によって運営が行われている「物性若手夏の学校」や「天文・天体物理若手夏の学校」における人数の規模などを調べてから本議題の決を取るべきではないかという意見が挙げられた。

2.2 議案の変更点と決議の結果

2.1 でのコメントと質疑応答を受けて、以下の変更点加わり決がとられた。

- 原子核の学生が集まらなかった場合は (すぐに開催の中止にはせずに) 次の順番で対応を行う。
 1. YONUPA のメーリングリストにて、原子核の学生を再度募集する。
 2. 新潟大学が各大学に人員の選出をお願いする。
 3. 新潟大学がローテーション校の中から人員の選出をお願いする。
- 次の秋の学会までに人数が集まらなかった場合は秋の総会にてもう一度議論を行う。

結果は賛成 47, 反対 2 で可決されました。

3 2023 年度三者若手役職校

2023 年度三者若手夏の学校における役職校は以下の通りとなりました。

- 三者センター校：名古屋大学
- 三者準備校：九州大学
- 事務局校：静岡大学
- 企画校：大阪公立大学

2024 年度の役職校については、以下の通りです

- 三者センター校：有志学生連合
- 三者準備校：東北大学